

# 強制連行・被爆苦難の日々

## 西区 中国人労働者の孫語る

戦時中、安野発電所 工事に強制連行された  
(安芸太田町)の建設 中国人労働者で、被爆  
者、王小軍さん(51)の

中国人被爆者(故)徐立伝さんのお孫さんが来日  
王小軍さんのお話を聞く会

主催：広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会



強制連行された徐さんの苦難について、孫の  
王さん(奥左から2人目)の話を聞く参加者

中国・青島市IIの話を  
聞く会が20日、広島市  
西区民文化センターで  
あった。徐さんの苦難  
や生前の様子を市民た  
ち約50人が聞いた。  
徐さんは中国人収容  
所で事件に巻き込ま  
れ、広島刑務所(現中  
区)で被爆した。帰国  
後の1992年、広島  
市の市民グループから  
聞き取り調査を受け  
た際に被爆を証言。既  
に歯肉がんを患い、日  
本で専門医の治療を  
希望したがかなわず  
に同年、70歳で死去し

た。  
初来日の王さんは、  
徐さんについて「収容  
所は食べ物や着る物が  
なく、つらかったと言  
っていた」と振り返っ  
た。戦後、中国の自宅  
に戻ると妻が亡くなっ  
ており、「自分の強制  
連行が心労になったせ  
いだと悔やんでいた」  
とも語った。  
同発電所建設で中国  
人360人が強制連行  
された歴史を継承する  
市民団体が主催。21日  
だ。  
午後1時半からは、発  
電所近くの「中国人受  
難之碑」前で集いを開  
く。王さんも参列する  
予定で「碑に向かうと  
思うと、悲しみて言葉  
にならない」と涙ぐん  
だ。(畑山尚史)

### 中国人被爆者 「広く知って」

20日西区 孫が講演

戦時中、日本に強制連行されて広島で被爆した中国山東省出身の故・徐立伝さんの孫王小軍さんが20日、西区横川新町の区民文化センターで講演する。

徐さんは1944年、安野村(現・安芸太田町)の発電所の建設現場でトンネル掘りに従事させられた。45年7月に親日派の中国人2

人が撲殺される事件に関わった疑いで広島刑務所に収容され翌8月に被爆した。

晩年、がんで苦しんだ徐さんは、日本での治療を希望したがかなわず、92年に亡くなった。王さんは初めて来日する。

王さんの講演のほか、約20分の記録映像「地底の響き―1992年訪中調査報告」の上映などもある。

主催する「広島安野・中国人被爆者を追悼し歴史事実を継承する会」の事務局長、川原洋子さん(68)は

「中国人被爆者もいたことを広く知ってもらふ機会にしたい」と参加を促す。

午後2時から4時半ま

で。参加費500円。問い合わせは川原さん(080・3880・8340)へ。(大滝書影)

2018年(平成30年)10月19日(金曜日)

中

国

新

聞

### 中国人遺族が語る強制連行 あま西で聞く会

戦時中、安野発電所(安芸太田町)の建設

工事のため強制連行された中国人労働者の被害について、遺族の話を聞く会が20日午後2時、広島市西区民文化センターである。市民団体の主催で、参加費

500円。元労働者の徐立伝さん(1992年に70歳で死去)の孫、王小軍さんが来日。収容所で事件に巻き込まれて広島刑務所(現中区)で被爆し、がんで亡くなった祖父の記憶を語

る。取材をした中国放送の柴田和広記者、中国新聞社の佐田尾信作論説主幹も参加する。

工事には360人が強制連行され、29人が重労働や原爆で亡くなった。21日午後1時半から同町の「中国人受

難之碑」前で追悼の集いがある。午前1時からフィールドワークも。JR広島駅北口発着の無料バス(先着20人、要予約)を運行する。広島安野・中国人被爆者を追悼し歴史事実を継承する会(080(3880)8340。(明知律二)